



100% 手作りのお世話®



成婚率の高さが決め手
コンピューターを一切使わず、すべて100%手づくりの誠実なマンツーマンシステムです。また、ご家庭環境、お人柄等バランスのとれたご紹介を重視し、無駄のないお出会いを実施しています。ご成婚重視と、プライバシー厳守のため、自社会員のみのご紹介をいたしております。

結婚物語 賢さ 際立つ一言

言葉というものがあるのなら、この賢い女性の一言にはまさにそれがあったのかな、と思うことがあります。彼女は関西の超難関国立大学大学院を卒業した国家公務員で、名実ともにキャリアウーマンでした。でも、彼女の聡明さは... → 続きはWebで [Em Road結婚](#)

Marriage Road 結婚

資料無料 • ドクターズ • エグゼクティブ • スタンダード 各コース

0120-4122-46 10:00~18:00 水曜定休

大阪本社 〒530-0043 大阪市北区天満3-2-2 エムロードビル3F

Em Roadはここが違います

- 1 成婚率の高さ
- 2 質の高い会員層
- 3 専任アドバイザーによる一貫したお世話
- 4 自社会員のみ構成
- 5 個人情報のパーフェクト・プロテクション

神戸 神戸国際会館22F

京都 オフィス・ワン四條烏丸6F

東京 丸の内トラストタワー20F

大阪医科薬科大学 仁泉会 ニュース

仁泉会ニュース 第54巻第4号

発行所

〒569-8686 高槻市大学町 2-7

電話 FAX

072-682-6166 072-682-6636

発行者 発行部数

安藤嗣彦 6,300部

URL

<http://www.jinsenkai.net>

令和5年度総会が開催されました

目次

- 令和5年度仁泉会総会 開催報告
- P3 総会挨拶
- P4 総会来賓挨拶
- P10 令和4年度 事業報告書
- P11 令和4年度収支決算書総括表
- P11 役員就任
- 祝・入学 令和4年度大阪医科薬科大学入学宣誓式
- P12 学長式辞
- P14 理事長式辞
- P15 祝辞
- P16 祝・近畿大学外科学教室肝胆膵部門主任教授ご就任！
- P17 受章報告
- クラス会だより
- P18 四八会（学22期）卒後50周年記念同窓会
- P19 ゴルフ48会報告
- 開業情報
- P20 開業しました！
- P21 開業しました！
- 支部だより
- P21 役員交代のお知らせ
- P22 令和5年度仁泉会大阪府支部連合会支部長会報告
- 仁泉ひろば
- P23 高槻風土記
- P26 「板谷外科の会」の報告
- P27 今時の若い者は
- P28 西経杯冬季大会 観戦記 —3年のブランクを超えて—
- P30 新聞切抜 奥沢康正先生（学14期）
- P31 まんが第62回
- 本部だより
- P32 会員訃報
- P33 お詫びと訂正
- P33 仁の泉
- P33 編集後記
- P34 テナント募集

仁泉会理事長 安藤嗣彦
大阪医科薬科大学 理事長 植木 實先生

大阪医科薬科大学学長 佐野浩一先生
大阪医科薬科大学 理事長 植木 實先生
仁泉会理事長 安藤嗣彦
松本逸平先生（学42期）
宮地道弘先生（学部18期）
濱崎憲夫先生（学部42期）

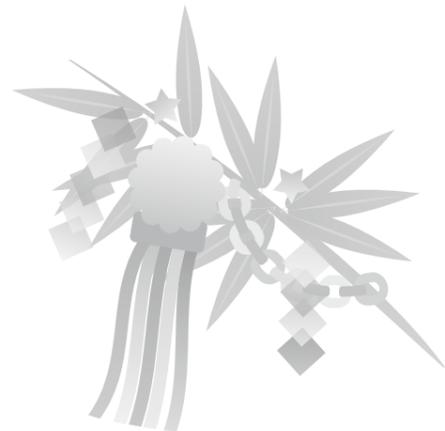
麻田邦夫（学22期）
樫原茂之（学22期）

高橋達一郎先生（学56期）
山本誠士先生（学52期）

村木宏要（学27期）

下山 誠（学6期）
上原従正（学14期）
岡野 准（学21期）
新井基弘（学36期）

上原従正（学14期）
コスモボン太ン（学31期）



大阪医科大学 創立100周年 記念事業

数十年先の未来医療へ

大阪医科薬科大学病院 新本館建築プロジェクト

Super Smart Hospital

スマート医療を推進する大学病院

「バイオフィリア」という概念を取り入れ、
自然と触れ合うことで健康や幸せを得られる空間を実現。

AIやロボットなど先端技術を活用し、
効率的で「安全・安心な高度医療」を提供。

最先端の医療技術や高度な多職種連携の学びにより
次世代を担う「優れた医療人を育成」。



募集要項

募金目的▶大学病院新本館建築に係る資金、学生支援体制の充実
募金目標▶10億円
募集期間▶～2027年3月
募金単位▶個人：1口1万円、法人：1口10万円
顕彰▶個人、法人ともに5口以上ご寄付いただいた方は、
銘板にご芳名をしるし、末永く顕彰いたします

特典▶個人：10口以上、法人：5口以上ご寄付をいただきました
方は、健康科学クリニックの人間ドック（基本コース）1回分の
無料受診券を進呈します。
申込方法▶学校法人大阪医科薬科大学寄付 WEB
サイトよりお申し込みいただくか、
募金推進本部迄ご連絡ください。



大阪医科薬科大学基金

大阪医科薬科大学基金は、皆様からいただいた募金を積み立てて資金運用することによりさらに増やしていくもので、
基金の拡充は、長期間にわたる「教育・研究活動」「良質な医療の提供」の強化に繋がります。

募集要項

募金単位▶個人：1口1万円 法人：1口10万円
申込方法▶学校法人大阪医科薬科大学寄付WEBサイトよりお申し込みいただくか、募金推進本部迄ご連絡ください。
【お問い合わせ先】募金推進本部 072-684-7243

【税制上の優遇措置】学校法人大阪医科薬科大学は特定公益増進法人です。大阪医科薬科大学に対するご寄付は所得税・
法人税・相続税の税制上の優遇措置を受けることができます。また一部の自治体では、個人住民税の税額控除の対象となります。

至誠仁術を備える人材の育成をめざして
ご支援のお願い

令和5年度 仁泉会総会 開催報告

令和5年5月28日(日) 母校新講義実習棟P101講義室にて令和5年度の仁泉会定期総会が開催されました。当日の出席者は64名(Zoom参加者含む)で、午後2時30分より評議員会が開催された後、午後3時より総会が開催されました。総会は大藪博副理事長(学22期)の開会の辞にてはじまり、令和4年度中の物故会員に対して黙祷を捧げました。続いて安藤嗣彦理事長(学20期)からご挨拶があり、その後、ご来賓として出席をいただきました、母校の植木實理事長(学12期)から大学法人についてスライドを使ってご説明をいただきました。佐野浩一学長(学29期)からは、国の教育基本計画に基づいた母校の入学試験制度の改革や、学生のカリキュラムの改正について、医師法の改正における、Student Doctorの育成等の大学の教育環境の変化についてお話を頂戴いたしました。内山和久医学部長(学32期)からは、学生の活動制限の緩和とその影響について、今年の医師国家試験についてのお話を頂戴しました。南敏明病院長(学36期)からは、病院建築が順調であることや医師の働き方改革について、時間外労働に対する総量規制が今後入ること、母校病院がその対策の好事例として取り上げられていること等についてのお話を頂戴いたしました。

その後、総会議事に入り、まず仮議長として櫛原茂之先生(学22期)が選出され、総会議長に高槻支部支部長で現高槻市医師会会長の保田浩先生(学31期)を指名され、出席者異議なく保田先生が総会議長に選出されました。令和4年度の事業報告、令和5年度の事業計画及び収支予算の報告が役員会よりなされた後、総会議案として令和4年度収支決算案及び監査報告、次期役員改選の件の審議がなされ原案通り承認されました。上野豊副理事長(学27期)の開会の辞にて総会は終了しました。その後、母校地下食堂に場所を移し、4年ぶりの懇親会が開催され和気藹々の雰囲気の中、盛会裏に終了いたしました。

当日の安藤理事長のご挨拶とご来賓の植木實理事長のご挨拶の要旨を掲載させていただきます。

総会挨拶

仁泉会理事長 安藤嗣彦(学20期)

本日は休日の日曜日にもかかわらず、評議員会、総会にご出席をいただきました皆様には厚く御礼を申し上げます。

さて、この5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、社会活動の制限は、ほぼ撤廃をされました。外出時のマスク着用も任意



とされ、世間もかつての姿を取り戻しつつあります。仁泉会におきましても、総会終了後の懇親会を4年ぶりに開催できるということで、皆様とゆっくりお話しできる機会が再び持てましたことを大変嬉しく思っております。もちろん感染対策にもしっかりと配慮し、本年もZoomを併用した会とさせていただきます。

本年は役員改選の議案がございます、理事長になりましたからのこの4年間はコロナ禍で同窓会として大事な親睦事業をほぼ行うことが出来ませんでした、今年に

入りまして、各地の支部会やクラス会の企画が増えたと聞き、大変嬉しく、この場を借りて、支部長、幹事の先生方に感謝を申し上げます。

仁泉会は先生方から頂戴した会費で、学会への助成や、在校生の奨学金貸与や西医体への支援、仁泉会ニュースの発刊等の諸事業を行っております。今後ともこれらの活動へのご理解とご支援をお願い申し上げます。本日はよろしくお願ひ申し上げます。

令和5年度仁泉会総会 あいさつ

学校法人大阪医科薬科大学 理事長 植木 實(学12期)

植木でございます。本日は仁泉会総会にお招きいただき、誠にありがとうございます。平素は何かとご指導、ご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。



今年度に入りましてコロナが5類へ指定変更がされ、社会活動が活性化してまいりましたことを嬉しく思います。大阪医科大学と大阪薬科大学が大学を統合しまして3年目となり、3学部の共同事業、学部間の融和が進んでおります。この4月には初めて3学部合同の入学式が、新たに建設されました高槻城公園芸術文化劇場で開催されました。医学部、薬学部、看護学部570余名の新入生とその保護者が参加した

1,000名を超える入学式は、非常にスケールメリットを感じました。

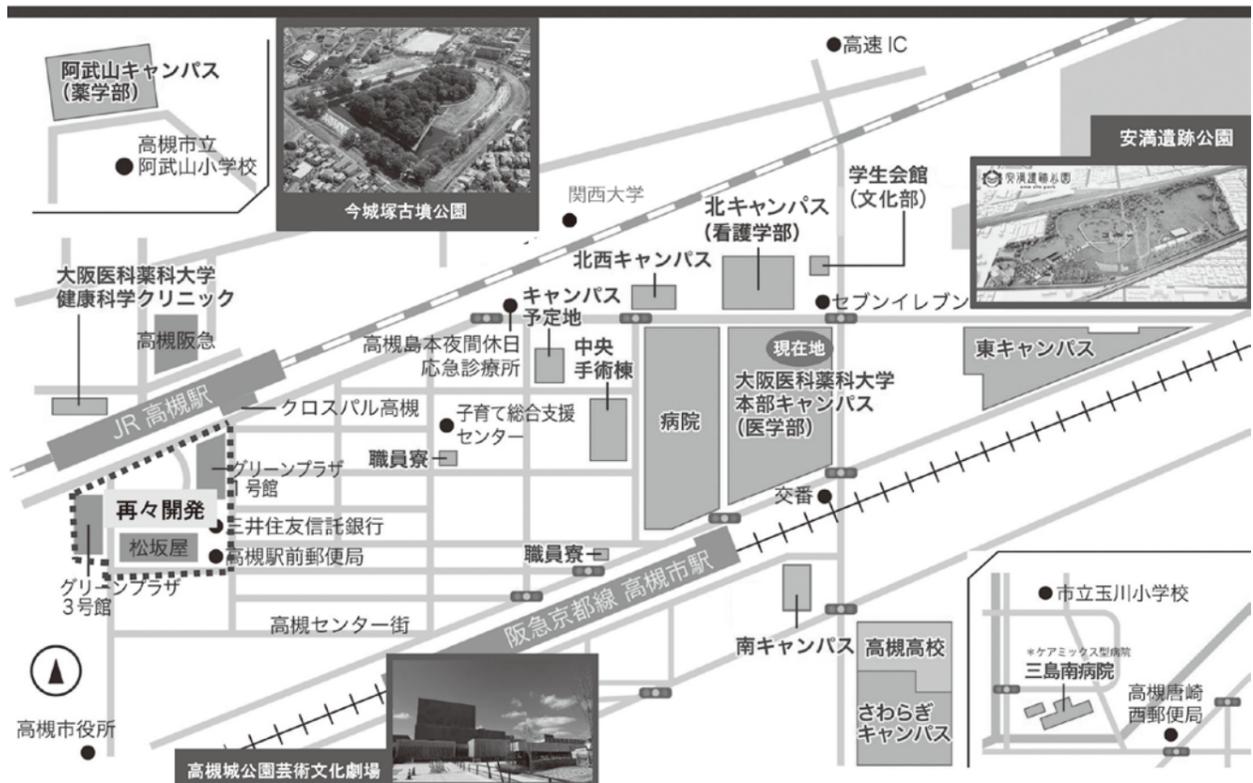
さて、本日は本学法人の運営や事業等についてお話しをさせていただきます。まず、法人が所有するキャンパスの現状ですが【図1】、阪急高槻市駅前に従来からの本部キャンパスと大学病院があり、北側には看護学部（北キャンパス）があります。6年前には大学病院の西側に新たに中央手術棟が完成しました。その北側にも新しいキャンパス予定地を取得しており、その付近にも2か所の職員寮があります。JR高槻駅ビル内には健康科学クリニックがあり、近隣住民に好評です。薬学部（阿武山キャンパス）は市の西北の山手、南側には高槻中学校・高等学校やさわらぎキャンパス、市の南西の玉川新町には大学病院分院の三島南病院があります。近年、本部キャンパスの東側に約3,000坪の土地を確保して東キャンパスとしており、準備ができ次第、薬学部を移設する予定です。

次に、現在の組織概要ですが【図2】、大学は医学部、薬学部、看護学部と各々大学院があり、学生数は合わせて3,100余名、高槻中学校・高等学校の生徒数は1,500余名で、法人全体で学生・生徒数は4,700名を超えます。大学病院には三島南病院、健康科学クリニックなど附設の医療施設があり、関西BNCT共同医療センターやLDセンターも設置しております。卒業生の総数は医学部で

【図2】学校法人大阪医科薬科大学：組織概要



【図1】本法人キャンパス現状一覧



【図3】学校法人大阪医科薬科大学

学校法人大阪医科薬科大学

設置の目的
この法人は、教育基本法及び学校教育法並びに私立学校法に従い、学校等を設置し、国際的視野に立った教育、研究或いは良質な医療の実践をとおして、創造性と人間性豊かで人類の福祉と文化の発展に貢献する人材を育成することを目的とする。

大阪医科薬科大学
建学の精神
国際的視野に立った良質の教育、研究および医療の実践を通して至誠仁術を体現する医療人を育成する。

学是
至誠仁術

使命
医療系の学術的教育及び人格形成の支援と実学的な基礎及び応用研究を行い、仁術を行う至誠の医療人を育成する。

10,000名を超え、薬学部（旧大阪薬科大学含む）は約23,000名、看護学部は附属看護専門学校を含め約5,000名、高槻高等学校は16,000名の卒業生を輩出しており、それぞれ長い歴史が感じられます。法人の全雇用者数は約4,600名となっております。

【図3】は、大阪医科薬科大学としての建学の精神、学是、使命ですが、今の時代に合うように、まず学是を『至誠仁術』と決定しました。その意味は、学生を人間として誠実、篤実な人物に成長するよう教育するとともに、良質で高い技術を身に付けた医療人に育成することです。そして、建学の精神はこの至誠仁術を体現する医療人に育成する、使命は仁術を行う至誠の医療人を育成するといったしました。

次に、旧薬科大学、現在の薬学部がある阿武山キャンパスをご紹介します。同学部は高槻の北側の山手に位置し、学生棟や管理部門、図書館、講堂、研究施設など4つの棟、体育館、運動場、薬用植物園などから成り、非常に素晴らしい環境にあります。

また、高槻中学校・高等学校はキャンパス全面整備が2年前に完了し、校舎が一新されております。新校舎は「学びの森」と呼ばれ、その中心には関西最大規模を誇る図書館があり、またアクティブラーニングを行うのに適した空間が設けられ、ディベートを常時行える小ホールや大

講堂（コナコピアホール）もあります。

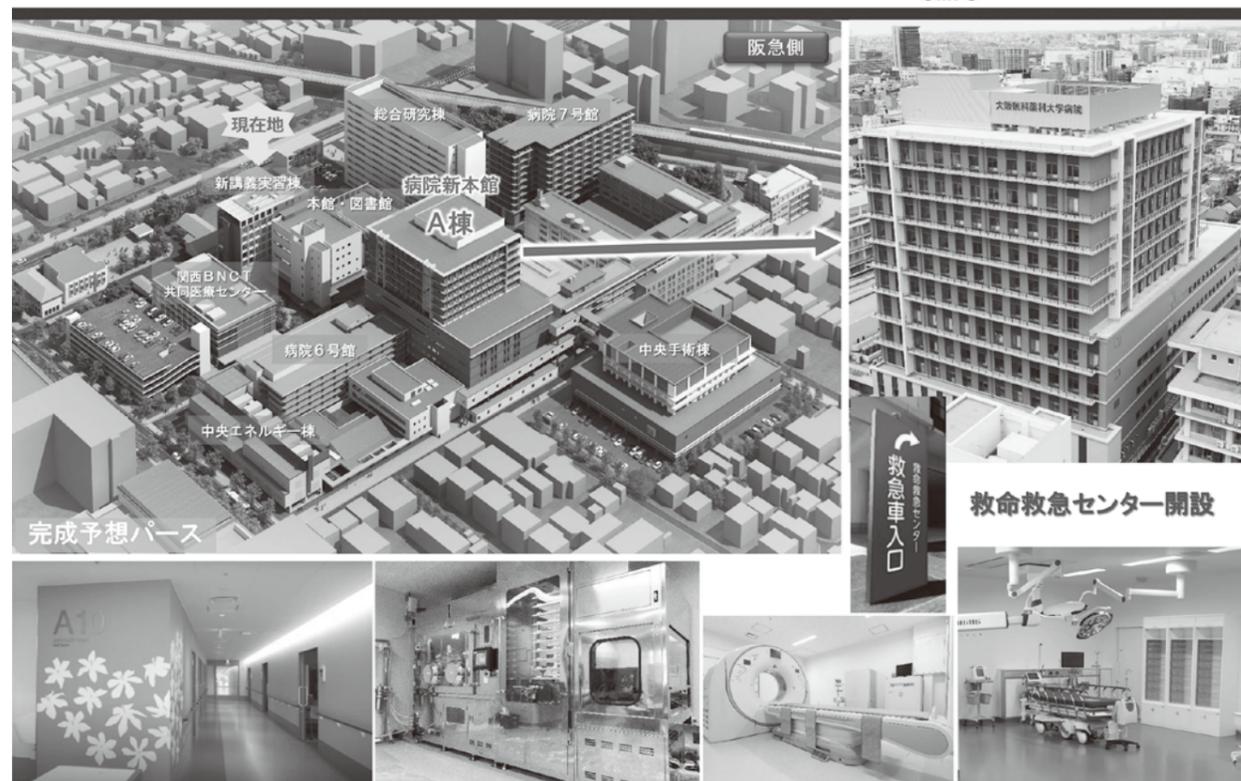
大学病院分院の三島南病院はケアミックス型の病院（214床）として稼働しており、急性期から回復・慢性期までの幅広い医療を提供しています。大学病院が精神科を除いて高度急性期と急性期の症例のみ取り扱うのに対し、三島南病院は地域に根差した診療活動を行っております。

平成28年に建築した中央手術棟は大学病院全建替事業の端緒となる施設で、先進的手術室やロボットなどの内視鏡手術室16室と日帰り手術室4室、ICU（個室型）16床、並びに2病棟があります。

【図4】は、建替2棟目として建築した他大学にはない非常に特色のある、世界に研究情報を発信できるがん施設「関西BNCT共同医療センター」です。ホウ素と中性子の核反応を利用してがん治療を行う施設で、世界的に非常に注目されています。現在は再発した頭頸部腫瘍のみに保険適用されており、症例数も順調に増えております。再発の頭頸部癌での奏効率は74%（CR42%）と高く、素晴らしい効果があることが分かってきています。今は第1選択での当該がん治療を行いたいと希望しており、また、いずれ多くの他臓器がんにも適応されていくと期待しています。

【図5】は、3棟目としての病院新本館A棟で昨年7月に開院しました。救命救急センターのついた新しい救急医療部の立派な施設が1階に在り、毎日多くの救急患者が

【図5】病院新本館 A棟 2022年7月 開院



搬送されてきています。また、放射線撮影をはじめ様々な検査室に最新の機器・設備が導入され、日本でも有数の診断施設が整っております。現在、A棟の隣りを解体・整地しており、A棟と合体するB棟は8月に着工し、2025年夏には完成する予定です。B棟は5階までを外来とし、ユニット構想で利便性のあるユニークな外来になります。例えば、心臓外科と循環器内科といった科が1つのユニットとして診療するなど新しい構想が描かれています。

次に、令和10年までに大学内の本部キャンパスの耐震化を100%整備するよう厚生労働省からの指示があり、該当する実験動物施設と法医学解剖施設は取り壊し、東北角の旧学生会館の跡地に新しい建物を建てるべく、設計図を作成中です。現在は2階建を想定しており、緑に囲われた環境の中での建設を考えています。

一方、本学法人の財務状況は、昨年度の事業活動収支差額は好調であり、純資産は約1,246億円と単科大学時代の2.5倍に増え、財政基盤は極めて安定しています。

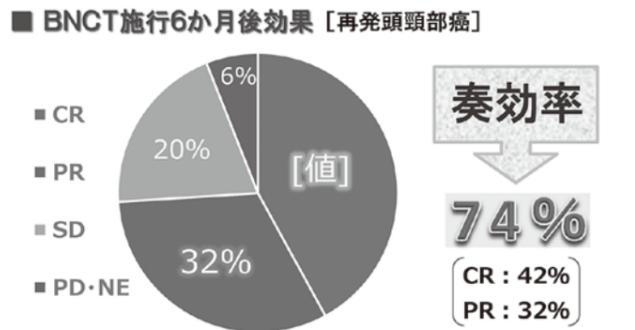
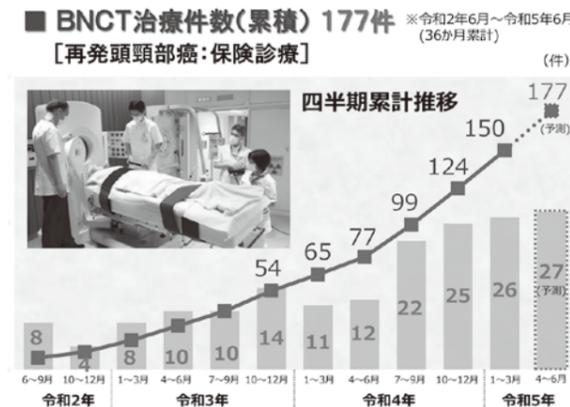
最後に、大阪医科薬科大学はどうあるべきかについて述べます【図6】。本学法人は、発展への要点として、社会の公器として社会貢献を継続して行っていくという考えのもとに、魂を入れた教育・研究を行うこと、教職員にはSSD(Staff self development)、即ち、自己研鑽に

努めること、そして法人のガバナンスの担保、財政の好循環を確保することなどが重要な要因と考えております。特に、財政の不足は教育の質の低下に繋がりますので、その安定に注力しつつ、社会貢献の継続をSDGs活動と繋げながら行いたいと思います。これら一連の活動は、法人自らの継続に繋がると考えています。

ここ10年間、本学法人は法人合併や大学統合など様々な大きな事業があり、その対応に追われてきましたが、今一旦、立ち止まって、本学法人自身のvalue(価値)あるいはadded value(付加価値)とは何かといった問題を考える時間を持ちたいと思います。今年の法人のスローガンの1つに掲げました。valueは自ら判断するものではなく相手が判断するものであり、商品で例えれば、作り手がいくら良いものと思っても相手が気に入るか否かは分からず、相手のneedsに合っこそ、それは価値があるということです。そして、valueで判断が難しいのは、invisible value(見えない価値)です。例えば、看護師さんが患者様に色々サービスすることは価値があると思われるが、一方ではそれが望まれていないことであれば必ずしも喜ばれないということです。

次に、本学法人が設置する大学や附属施設の役割について考えてみたいと思います。大学は文部科学省や教師団等の基準・方針に基づいて一定レベル以上の医師、薬剤師、看護師をそれぞれ育成します。その中で、医療

【資料4】関西BNCT共同医療センター・PETセンター



【図6】(学)大阪医科薬科大学の発展への要点



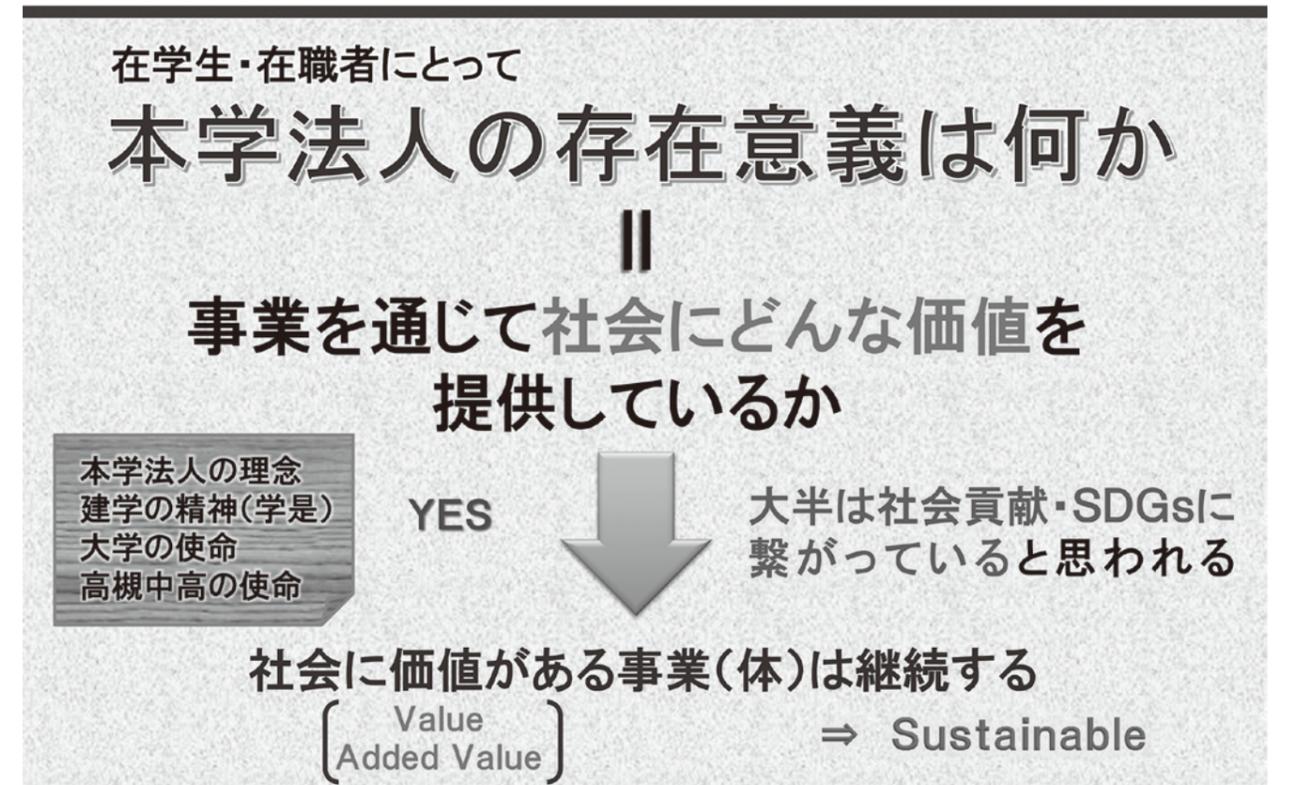
人を育成するだけでなく、高い人間性と向学心を持った人物を育てることが一番大事だと考えています。学校や病院にとってのvalueは、卒業生の人物や活動、そしてその方々の活動を通じた社会貢献を世間が判断して評価するものであり、また、大学院、大学病院や各研究室での研修、研究、並びに専門家資格の取得やさらなる技術の向上は、卒業生により高いadded valueを付与すると考えます。そして、これらもやはり第三者が評価することと考えます。

次に、本学法人の存在意義とは何か、事業を通じて社会にどんな価値を提供しているかについて考えたいと思います【図7】。幸いなことに、本学法人の事業はほとんど全てが社会貢献・SDGsに繋がっていると考えられます。学生を医師をはじめとした医療人に育て、さらに付加価値として高い技術を身に付けさせる、病院では病める人に最新の安全な医療の提供を行い、治療をし、社会に復帰していただく、これらのことから、本学法人のほとんどの事業は社会への貢献に繋がりがあると考えられます。しかし、患者様は必ずしも病気が良くなるとは限らないことなど、見方によっては一概にそのようにはいえないと思われれます。重要なことは、一般に法人でも企業でも、社会に価値ある事業はサステナブルであることだと考えられます。

今後とも、本学法人は人間性豊かな良質の医師、医療人の育成と地域に高度で安全な医療を行うなど、社会に貢献しつつ継続して事業を行ってまいります。

これからも仁泉会の諸先生のご指導とご支援をお願い申し上げます。皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

【図7】本学法人の存在意義



令和4年度 事業報告書

1. 学術研究振興援助事業

令和4年度は申請が4件あり、それに対し助成を行い、仁泉会ニュースにて報告を行った。

	学会名（申請順）
1	第19回日本口腔ケア学会総会学術大会
2	第139回中部整形外科災害外科学会
3	第65回日本形成外科学会
4	CLEFT2022

2. 奨学金貸与事業

令和4年度に採用された奨学生は7名であり、各々年額60万円の奨学金を貸与した。

令和5年3月末日の奨学金貸与残高は30,590,000円である。

3. 本部諸事業に関する事項

1) 大阪医科薬科大学への後援事業

- ①母校の100周年記念活動の広報協力を行った。
- ②令和4年度卒業生大矢明香里さんに対して仁泉会理事長賞を授与した。
- ③母校の活動報告として、学報及びOMCニュースを全会員に向け発送した。
- ④在学生に「学生生活虎の巻」と題した講演会を年1回行った。
- ⑤学園祭に対し援助を行った。
- ⑥母校医師国家試験対策に援助を行った。
- ⑦西医体活動への援助を行った。

2) 会員の福利厚生への事業

- ①会員の動向把握を行い、物故会員に対して供花料及び弔電を送った。
- ②令和4年度の傘寿会員に対して傘寿祝の記念品を贈呈した。

3) 仁泉会組織強化に関する事業

支部会、クラス会開催にあたり、案内発送代行の事務支援を行った。

4) 全国私立医科大学同窓会連絡会との連携事業

- ①第30回全国私立医科大学同窓会連絡会「西部会」は中止となった。
- ②第31回全国私立医科大学同窓会連絡会「全国会」は中止となった。

5) 広報事業

- ①機関紙「仁泉会ニュース」を年6回発行した。
- ②フェイスブック及びホームページにて、各種案内及び母校の情報提供を行った。

6) 会員に関する事項

①新入会員に関する事項

令和4年4月入学生は112名、令和5年3月の卒業生は108名であり、令和4年度入会者は220名である。

②会員数に関する事項

令和5年3月末日現在の会員数は5,932名である。

そのうち住所不明等で郵送を停止している会員は347名である。

③物故会員に関する事項

令和4年度に届出のあった物故会員は57名である。

④会費免除者に関する事項

令和5年3月末日現在の免除会員数は587名である。

7) 役員及び会議に関する事項

①理事会役員に関する事項

令和5年3月末日現在の役員は次の通りである。
理事長1名、副理事長3名、常任理事6名、理事12名、監事3名、参与8名 合計33名

②会議に関する事項

令和4年度に開催した会議及び役員が出席した会議は次の通りである。

総会1回、評議員会1回、理事会5回、監事会1回。

支部会8回

以上

令和4年度収支決算書総括表

自令和4年4月1日～至令和5年3月31日決算

(単位 円)

科目	合計	一般会計	基金特別会計
I 収入の部			
基金収入	5,852	0	5,852
入会金収入	1,810,000	1,810,000	0
会費収入	20,670,000	20,670,000	0
学生会費収入		1,386,000	0
寄付金収入	0	0	0
雑収入	1,923,148	1,922,836	312
奨学金返還金	5,832,000	0	5,832,000
繰入金収入	8,684,638	1,020,000	7,664,638
当期収入合計 (A)	40,311,638	26,808,836	13,502,802
前期繰越収支差額	47,773,595	27,236,759	20,536,836
収入合計 (B)	88,085,233	54,045,595	34,039,638
II 支出の部			
事業費	13,618,009	9,418,009	4,200,000
管理費	13,333,217	13,322,584	10,633
特定預金支出	410,000	410,000	-
繰入金支出	1,620,000	600,000	1,020,000
当期支出合計 (C)	28,981,226	23,750,593	5,230,633
当期収支差額 (A) - (C)	11,330,412	3,058,243	8,272,169
次期繰越収支差額 (B) - (C)	59,104,007	30,295,002	28,809,005

※細日につきましては仁泉会ホームページ、活動報告「令和5年度総会資料」に掲載しております。

役員就任

(任期：令和5年5月29日～令和7年総会終了まで)

理事長 安藤 嗣彦 20 重任

理事 飯田 稔 18 重任

理事 大藪 博 22 重任

理事 安井 多喜雄 23 重任

理事 福本 敏子 24 重任

理事 森本 博子 24 重任

理事 大森 英夫 25 重任

理事 水谷 均 26 重任

理事 上野 豊 27 重任

理事 小野 誠治 28 重任

理事 江口 秀史 30 重任

理事 酒谷 薫 30 重任

理事 米田 豊 30 重任

理事 御前 治 33 重任

理事 星賀 正明 34 重任

理事 森川 浩志 36 重任

理事 中嶋 秀人 37 就任

理事 中野 隆史 38 重任

理事 上田 英一郎 40 重任

理事 大植 睦 40 重任

理事 金沢 徹文 49 就任

監事 日下 孝明 16 重任

監事 大西 洋一郎 25 重任

監事 寺村 和久 37 重任

※5月28日の臨時理事会にて安藤嗣彦理事長が再任されました。



祝・入学

令和5年度

大阪医科薬科大学入学宣誓式

令和5年度の入学宣誓式は、令和5年4月5日（水）午後2時より高槻城公園芸術文化劇場大ホールにて、医学部医学科112名、看護学部看護学科89名、薬学部307名で行われ、佐野学長、植木理事長より式辞が述べられました。

当日の挨拶とともに、新入学生に対する安藤嗣彦仁会理事長の祝辞を記させていただきます。

学長式辞

大阪医科薬科大学学長 佐野浩一

花細し春、新入生、医学部112名、薬学部307名、看護学部89名、大学院医学研究科37名、薬学研究科13名、看護学研究科12名、の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、ご家族や関係の皆様にはさぞお喜びのことと存じます。



御同慶の至りでございます。本学の教職員を代表して、心よりお祝いを申し上げます。また、新入生を祝福するために、年度始めの御多忙中にもかかわらず、御参列くださいました御来賓の皆様には厚く御礼申し上げます。

本日、令和5年度の入学式を挙げる高槻城公園芸術文化劇場は、この春、新築オープンしたばかりで、これが、この会場初の入学式となります。

また、式典としては、開館記念式典に次いで2番目となります。三島医療圏に日本でも有数の医療体制を設備下さった上にこのようなりっぱな会場をご提供下さいましたご来賓の濱田たけし高槻市長様に心より御礼申し上げます。

さて、新入生の皆さんは新型コロナウイルスが猖獗するなど、世界中の人々が多くの困難に直面する中、受験勉強に勤しみ歴史と伝統のある本学に入学され、本

日ここに集われております。皆さんの今までの精進に心より敬意を表します。

大阪医科薬科大学は、世界各国が競って導入を検討しはじめている中性子を用いたがん治療施設（BNCT共同医療センター）を備える世界で最初の大学です。加えて、最新の設備を備えたスーパースマートホスピタルが間もなく完成します。また、日本の大学や大学院の在り方が大きく変化する中、本学はその変化を先んじてとらえ、新しい学生生活支援体制、留学生と学生や教員の交流の場となるGlobal centerの開設、長期短期の海外留学制度、多職種連携教育の実質化、専門科目内教養教育の提供、多彩な産官学連携研究など、皆さんが良質な教養や専門知識を身に着ける環境が整っています。なによりも、本学には、私の自慢の教員や職員がおり、皆さんを見守り・支え、また共に学びます。皆さんは、人生のあり方を創造し磨き上げるために大変良い環境の大学・大学院を選ばれたと思います。

学部生の皆さんにとって、本学は人生の目的地ではありませんし、本学の学生であることによって皆さんの価値が決まるものではありません。今日、ここで入学宣誓を行った瞬間に、皆さんは大学受験から解放され、人々のために尽くす医療人となるために出発したのです。大学とは皆さんが自分自身の人生のあり方を創造し磨き上げる場であることを心に刻んでおいてください。

また、大学院に入学された皆さん、大学院は日本の最高学府です。皆さんはこれから博士（Doctor of Philosophy）を目差されます。修士（Master）はその過程にある学位です。PhDのPhilosophy哲学とは万物の原理や真理を追求するもので、現在の人文科学・社会

科学・自然科学が哲学より派生していることから、各学問を中心にしてより広い視野での考え方を修めた者にPhDの学位を授与するものです。皆さんは、学士（Bachelor）の学位を授与され、それぞれの学問分野の中で思考を重ねることができます。その思考の範囲を科学の総体更には人間そのものあるいはそれを越えて、地球・宇宙にまで広げて、より深く思考重ねるのが大学院での学びです。皆さんは、その学びの場を大阪医科薬科大学大学院に求められたことを今一度、確かめて下さい。

皆さんの母校として選んだ大阪医科薬科大学・大阪医科薬科大学大学院の真の価値は、教育研究環境だけで決まるものではありません。大学・大学院の真の価値を決めるのは学生であります。自らのあり方を創造し、磨き上げようとする学生がいる大学・大学院こそ、真に価値のある大学・大学院であります。皆さんひとりひとりが自らのあり方を創造し、磨き上げようと努力してはじめて、本学の真の価値が認められ、皆さんが誇ることのできる母校になります。皆さんが本学の学生であることに誇りをもつことができるか否かは皆さん自身のあり方によるということです。

ここで、皆さんが本学で学ぶための心構えをお話したいと思います。

本学の学是は「至誠仁術」です。誠に至らんとし、仁術を為そうとすると、生涯を通して行うべきことがあるといえます。それは「恕」です。「恕」は女偏に口、その下に心と書きます。論語の中で二か所にだけに力強く現れる文字です。一つは、孔子が「我が道は一を以つ

て之を貫く」と言い切る部分、もう一つは、子貢が「一言にして終身行うべきものありや」と孔子に尋ねたときの答え「其れ恕か。」の二か所です。孔子が常に心掛け、「仁」を求めるために一生貫こうとしたもの、それが「恕」だったのです。「恕」は「思い遣る」あるいは「思いを巡らせる」ことを意味し、「仁」を求めるために為すべきことであり、また、「仁」の現れでもあるといわれます。人は生まれながらにして順序立てて思いを巡らせる能力を持っていますが、思いを巡らせる原点が粗末であると邪悪に至ります。孔子の云う「恕」は単に思いを巡らせることではなく、「仁」を求め、「誠」に至らんとする高潔な原点から思いを巡らせることだと私は考えます。本日、入学された皆さんは、至誠仁術を胸に自らを誇ることができるように、これからその高潔な原点を形成するために必要な教養や知識を身につけていただきたいと思います。それが、皆さん自身のあり方を創造し磨くことになり、ひいては、本学を皆さんが誇ることのできる母校に育てることになることを忘れないで下さい。

結びとして、本日、入学を宣誓した皆さんには、改めて心からお祝い申し上げますとともに本学の恵まれた環境の下で自らの価値を創造し、磨き上げていただきますようお願いして式辞といたします。

清浄明潔

令和五年四月五日



理事長式辞

学校法人大阪医科薬科大学

理事長 植木 實

ただいまご紹介いただきました植木でございます。

皆様、本日は大学及び大学院研究科へのご入学お目出度うございます。心からお祝い申し上げます。ご出席下さいましたご両親・保護者の皆様におかれましても、さぞお慶びのことと拝察申し上げます。

本日ご出席の皆様の中で、大学へ入学されました新入生諸君には大学入試に向かって小学校の頃から中学・高等学校と、長年の間、一途に勉強をされてこられたことと思います。この入学に際し、改めて、幼少の頃から育て、長い教育期間を支えて下さいましたご両親、保護者、お世話になった方々への感謝の気持ちを忘れないでほしいと思います。多くの支えに感謝の気持ちを常に持つことが、人間性ある医療人に成長する第一歩だと思えます。

扨、今日の入学に際して皆さんの頭の中に刻み込んでほしいことは、学長も触れられましたが、大阪医科薬科大学の学是である「至誠仁術」であります。難しい言葉ですが、簡単に申しますと、人は人間性を高めていけば誠実・篤実な人物に到達するといわれますが、そのような人篤のある医療人が良質の治療を施すことを至誠仁術と理解しています。この医療人には、肉体の病を治すだけでなく、傷ついた精神・心理面も治す力があるからと考えます。皆さんは、これからの在学中、どうすれば至誠仁術を身に付けることができるかを考え続けていただきたいと思えます。

次に、トレンドな言葉として注目を集めていますValue（価値）とAdded Value（付加価値）にスポットを当ててみたいと思えます。本法人の今年の新年の挨拶でお話ししたことで、入学される皆さんに私なりの解釈を付けながらご紹介申し上げたいと思えます。

Valueとは価値とか値打ちであります。商品等で考えると判り易いと思えます。ただ、それに価値があると判断するのは相手、所謂、お客様、買い手がすることで、決して作り手や売り手が判断するものではないということです。多くの方は、きっと混乱して使っていると思えます。しかし、このValueを学校や病院等の教育や医療面で考えると大変難しく、これらはInvisible Value、目に見えない価値と言われるものです。即ち、大学の価値及びその教育の評価は一般的にその大学の卒業生の社会における活躍度や人物等により判断されており、又、病院の価値もそこでの治療結果や医療サービスを患者さんやご家族、地域

の方々を通して判断されています。

一方、Added Value 付加価値については、その品物や医療がお客様や患者様のニーズを叶えているかどうかで決められます。即ち、電化製品でいえば安くて丈夫で適当に使い易い機能がついていることが消費者のニーズを満たすといえます。しかし、価値判断の難しい大学について考えれば、学問に加え、より人間性豊かでグローバルな視野を持った人物や優れた（医療）技術を持つ人材を育てることと考えますし、病院でいえば治療は最新の技術等で肉体的・精神的負担を減らし、入院期間も短く、親切・快適に過ごしていただくことなどが考えられます。ここで、本法人が設置する大学や附属施設が新入生の皆さんの医療人への成長に果たす役割について考えてみたいと思えます。

まず、法人が設置する大学は、文部科学省や教員団等の基準・方針に基づいて各学部の学生諸君をそれぞれその良質の、所謂Valueのある医師、薬剤師、看護師に育成致します。

次に、同様に設置する大学院・研究所や各研究室及び大学病院では、研究や臨床研究により学位や専門医、専門資格等を取得することでAdded Valueが付与され、さらに長期海外留学等はその人物により高度な付加価値Highly Added Valueを付与すると考えます。

以上、少し難しいことをお話しましたが、入学されました大阪医科薬科大学は、皆さんをそれぞれValueある医師、薬剤師或いは看護師に育成し、卒業後もさらに高度な医療技術を身に付けた人間性豊かな医療人に成長できるよう、Added Valueを付与する指導を行って参ります。皆さんの卒業時に受ける国家試験は1つの関門ではありますが、目指す先は「至誠仁術」を備えた医療人であることを肝に銘じてほしいと思えます。

最後に、新入生諸君には大阪医科薬科大学の学生としての誇りと自信を持ち、人間性豊かな良質の医療人になるという目標を失わず、“よく学ぶ”ことを基本として、良い友人を作り、クラブ活動を楽しみながら、実りの多い大学生活を送って下さいませよう希望致しまして、ご入学の祝詞と致します。

本日は誠に御目出度うございました。

祝辞

一般社団法人大阪医科大学

仁泉会理事長 安藤嗣彦

大阪医科薬科大学の医学部第3期生の新入生諸君御入学誠におめでとうございます。御両親をはじめ御家族の皆様には感慨ひとしおのことと存じ、心からお慶び申し上げます。

私は大阪医科薬科大学の医学部同窓会組織、一般社団法人大阪医科大学仁泉会の理事長の安藤と申します。このよき日に同窓会を代表として一言お祝い申し上げます。

諸君達は大阪医科薬科大学の映えある3期生ですが大阪医科大学医学部の入学生としては78期生となります。

本学の前身は昭和5年に創設された5年制の大阪高等医学専門学校で、西日本では最も歴史のある医学校です。当時のアジア、南米への移民開拓団の人達の医療を目的として設立されました。

諸君達は長く苦しい受験地獄よりやっと解放され、ほっとされている事と思えます。しかしながらこれからが医学の道を極める第1歩を踏み出す時でもある事を肝に命じ

て下さい。

その為には、今から授業を受け、本を読む習慣を身につけて下さい。今の医学は日進月歩で常に新しい知識を習得して下さい。又、同時に悩んでおられる患者さんの心の内を理解する心情豊かな精神の育成も必要です。まずはクラブ活動で同級生、先輩、後輩との友情を築いて下さい。本学には種々の体育会系文科系のクラブがありますので是非入部して下さい。

大阪医科大学は大阪薬科大学と統合後、従来の看護学部も含め医療系の総合大学として船出しましたが、今後更に他学部の造設も計画されています。又、大阪医科大学創立100周年事業としての新病棟（A棟）も完成し、更に現在B棟の建設も始まっています。昨年7月より最新のAI技術を駆使した診療、研究が始まりました。大学の建学の精神は至誠仁術です。孔子・孟子の教えを嘯みしめ、尊敬される医療人に成長する事を願って、祝辞とさせていただきます。





祝・近畿大学外科学教室肝胆膵部門 主任教授ご就任！ 松本逸平先生（学42期）

ご挨拶

文責／松本逸平（近畿大学医学部外科学教室肝胆膵部門 主任教授 学42期）

大阪医科薬科大学仁泉会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。2023年4月1日付で近畿大学医学部外科学教室肝胆膵部門の主任教授を拝命いたしました松本逸平です。

私は1987年に大阪医科大学に入学し、サッカー部に所属し大変充実した学生生活を送りました。卒業後、神戸大学旧第一外科へ入局しました。2001年米国ミネソタ大学へ留学し、1型糖尿病に対する臨床膵島移植に携わりました。2004年より神戸大学で、肝胆膵外科、主に膵臓疾患の臨床・研究・教育に従事しました。2014年に近畿大学医学部外科学教室肝胆膵部門准教授として迎えていただき、この度の昇進となりました。

神戸大学では、膵臓移植、膵島移植の臨床導入や、当時保健未収載であった腹腔鏡下膵体尾部切除術をいち早く導入し、先進医療の認可のもと実施しました。

近畿大学赴任後は直ちに腹腔鏡下膵切除術を導入し、現在ではロボット支援下膵頭十二指腸切除術など、低侵襲膵切除術を積極的に行なっています。一方、近年の集学的治療の進歩により、進行膵癌に対する動脈・門脈合併切除再建術や他臓器合併切除を要する拡大手術や、切除不能例に対する化学療法奏功例に対するconversion surgeryなどの、高難度手術も積極的に行っています。

膵癌の予後改善のためには、新規集学的治療開発、合併症低減のための新規術式開発、周術期管理・術後QOLの維持が重要と考え、これまで多くの臨床研究に取り組んできました。最近では術後膵液瘻を低減する新規膵切離法の開発や新規縫合針の開発（特許取得）、膵全摘術の全国実態調査や周術期膵内外分泌機能障害に着目した臨床研究を行っています。

肝胆膵領域疾患の診断・治療は高い専門性が求められるため、施設の集約化が進んでいます。近畿大学病院は南大阪の拠点病院として、また国内屈指のhigh



volume centerとして大きな役割を担っています。また教育機関として臨床、研究、教育の3つの柱が相互作用しながら、より高いレベルへ発展することが必要と考えております。これらのmissionの達成に向け、尽力したいと考えています。

皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

松本逸平先生ご経歴

- 1993年 大阪医科大学卒業
- 1993年 神戸大学医学部附属病院第一外科 研修医
- 1994年 兵庫県立成人病センター外科 研修医
- 1995年 松田病院外科
- 1995年 西脇市立西脇病院外科
- 1996年 兵庫県立姫路循環器病センター外科
- 1997年 神戸大学医学部第一外科 医員
- 1999年 兵庫県立成人病センター外科
- 2001年 米国ミネソタ大学外科 研究員
- 2003年 神戸市立中央市民病院外科
- 2004年 神戸大学医学部消化器・乳腺外科 医員
- 2007年 神戸大学医学部肝胆膵外科 医員
- 2008年 神戸大学医学部胆膵外科 助教
- 2009年 神戸大学医学部肝胆膵外科 講師
- 2013年 神戸大学医学部胆膵外科 病院准教授
- 2014年 近畿大学医学部外科肝胆膵部門 准教授
- 2023年 近畿大学医学部外科肝胆膵部門 主任教授

受賞報告

下記の先生方の受賞が判明いたしました。

母校として慶事でありますので、ここにご報告させていただきます。

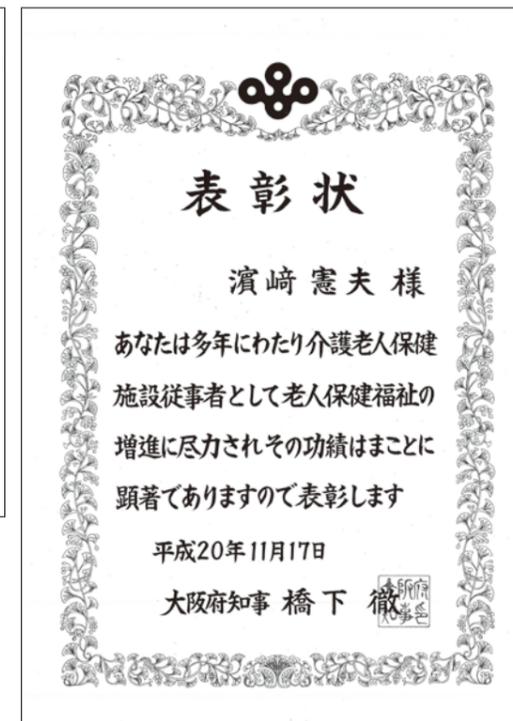
宮地道弘先生（学部18期）

厚生労働大臣表彰（令和4年度 救急医療功労者）

濱崎憲夫先生（学部42期）

厚生労働大臣表彰（平成29年 介護老人保健施設事業功労）

大阪府知事表彰（平成20年 介護老人保健施設従事者）



クラス会だより

四八会（学22期） 卒後50周年記念同窓会

文責／麻田邦夫（学22期）

令和5年4月8日、ザ・サウザンド京都にて四八会（学22期同窓会）、卒後50周年記念会を行いました。今回は、新型コロナウイルス感染症の流行による緊急事態宣言の発出もあり、5年ぶりの開催となりました。多人数の集まりを控える方が多かったためか出席者は35名にとどまりました。それでも東京、神奈川、高知、広島から出席してくれた方々もおられ、世話人としては、大変有り難い思いでした。

会を始めるにあたり、卒業後に亡くなられた12

名を偲び黙祷をささげた後、幹事麻田の挨拶、清水鴻一郎君の乾杯の発声で宴が始まりました。今までは2年半ごとの開催でしたが、今回は久しぶりの再会で話が弾み、会も盛り上がったところで、京阪神以外の遠方から参加された方々にショートスピーチで、近況報告をして頂きました。会の終わりに集合写真を撮影して、引き続き2次会でも楽しい時間を過ごすことができました。

参加者(敬称略)：

麻田邦夫、磯田幸太郎、櫛原茂之、岩越一彦、上村博幸、大庭容子、刈谷隆明、河村裕憲、岸本郁男、木村邦夫、窪田隆裕、栗山博、黒田泰二、佐野求、清水鴻一郎、谷二三生、塀水尾哲也、豊田秀三、傳秋光、出口寛文、富岡暉、中尾重昭、並河啓、西田靖彦、橋本修、菱谷好高、広沢啓三、藤澤明生、舟木亮、前川高天、松瀬幸太郎、丸尾馨、湊博恵、村田貞史、山田幸宏



ゴルフ48会報告

文責／櫛原茂之（学22期）

令和5年4月9日、卒後50周年記念同窓会の翌日、母校から20分のベニーカントリー倶楽部において開催しました。桜は散ってしまい、葉桜状態。午前中は春とは思えない寒風、午後からはやっと春らしい一日でした。

今回は4年ぶりの、97回目の会でした。これまでも参加者減少のため、これを最終回とする案があり

100回を目指していた世話人としては残念至極です。皆さん、ほぼ後期高齢者のためか、何らかの理由で参加者が8名となりました。

記念大会のためWP方式で行いました。成績は実力者河村裕憲君がベスト優勝でした。その他の参加者は成績順に佐野求君、櫛原茂之、大庭容子君、村田貞史君、広沢啓三君、藤澤明生君、栗山博君でした。各賞として、DC賞 大庭、NP賞 佐野2、藤沢、櫛原が獲得しました。

最近はやりのワンドリンク会食では100回まで開催しようとの意見が出て世話人一同、思案中です。少人数でも開催するかもしれません。その際は多くの参加を期待します。楽しい2日間ありがとうございました。



広告募集！

仁泉会ニュースでは、広告の募集もしております。
ご出稿のタイミングや料金などは事務局までお問い合わせください。

TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636

e-mail / jimuj@jinsenkai.net



高橋達一郎先生
 平成19年卒（学56期）
 在学中の所属部活／陸上競技部

こころの診療所いしずえを開設して

平成19年卒業の高橋達一郎と申します。諸先輩方の前に、自分のような者が開業の報告をさせていただくことは正直気恥しいのですが、折角の機会をいただきましたのでご紹介させていただきます。学生時代は陸上競技部に所属しておりました。母校卒業後、大阪鉄道病院で初期臨床研修を終えた当時は東京で一度は勤務したい気持ちが捨てきれず、少々ミーハーな気持ちで慶應義塾大学医学部、精神・神経科学教室に入局しました。大学病院中心の専修医期間を終えた後は、川崎市立川崎病院と山梨県立北病院に2年間ずつ勤務しました。

6年間で精神保健指定医、精神科専門医・指導医を取得しましたが、社会医学を学んで自分の視野を広げたいと考え、またそろそろ関西も恋しくなってきたこともあり、平成27年から京都大学大学院医学研究科医療経済学分野に進学しました。今中雄一教授のもとでレセプトデータベースやDPCデータなどビッグデータを用い、統合失調症患者における抗精神病薬大量処方に関連因子についての研究を行い、少々苦戦しましたが博士号を何とか取得することが出来ました。

ご開業のきっかけについて

開業にあたり、大学院の合間の時間を使い、半年間で約25ヶ所の物件をまわり、最終的に大阪メトロ谷町線平野駅から徒歩5分、区役所から徒歩2分、旧集配郵便局向かいの物件に決めました。医師だけでなく、心理士・看護師・

精神保健福祉士など多職種患者さんの支えのひとつになっていきたいという意味から、物事の基礎となる大切なものという意味がある“いしずえ”という言葉診療所名に入れております。

診療所の特色を教えてください

当院では、精神科外来全般のほか、地域の患者さんの生活を支え、今後も安心して生活していただくことを目標に訪問診療を行っております。外来・訪問診療以外にもデイケア導入を予定しております。

仁泉会員の先生方に一言お願いします

開業して約1年間が経過しましたが、おかげさまで受診される患者さんが増えているほか、幸いスタッフにも恵まれております。デイケア導入など、次に取り掛からないといけないことは山積みですが、地域に貢献できるよう、前向きに進んでいきたい所存です。

こころの診療所いしずえのご紹介

- 所在地
〒547-0034
大阪府大阪市平野区背戸口3-9-6
フェリーチェヴィータ1階
- 電話
06-6777-3088
- FAX
06-6777-3516
- 診療時間
午前診 9:00~13:00
午後診 15:00~19:00
木曜午後は15:00~21:00
土曜午後は14:00~17:00
休診日 金曜日・日曜日・祝日
- ホームページ
<https://www.kokoro-mental-clinic.com>



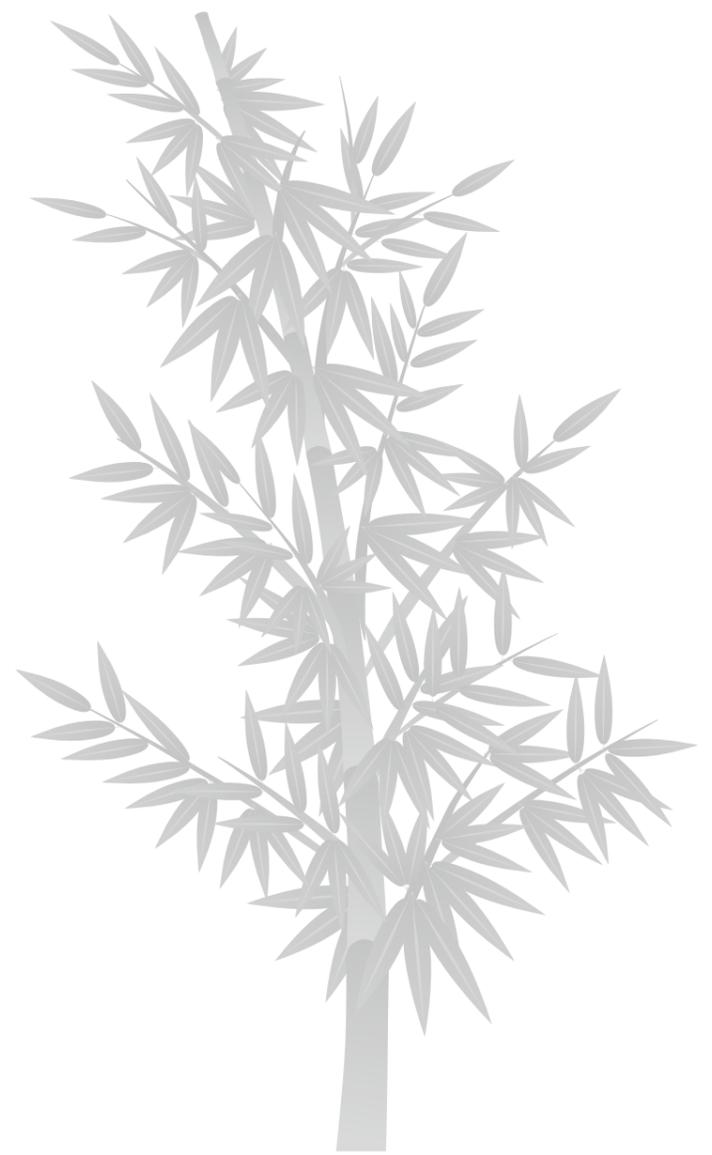
開業しました!

山本誠士先生（学52期）

名称 やまもとホームケアクリニック
 住所 〒567-0818 茨木市本町 6-5 シャーメゾン本町 101
 電話 072-625-5287
 FAX 072-625-5288
 診療科目 内科・緩和ケア内科・訪問診療
 診療時間 外来
 月水金 午前 9:00~12:00 (完全予約制)
 訪問診療
 月水金 午後 13:00~17:00
 火木 午前 9:00~12:00 午後 13:00~17:00
 休診日 土曜、日曜、祝日
 ホームページ <https://yamamoto-hcc.com>
 仁泉会の先生方に一言
 先生方のご期待にお応えできるよう、日々精進する所存でございます。どうか今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

役員交代のお知らせ

- <地区選出評議員評議員>
 京都 前評議員 内田 實先生（学12期）
 ↓
 新評議員 大藪 博先生（学22期）
- 九州 前評議員 西脇健三郎先生（学21期）
 ↓
 新評議員 大塚和生先生（学25期）
- <学部13期評議員>
 前評議員 横山 永先生
 ↓
 新評議員 藤本 昭先生



支部だより ●●●

令和5年度仁泉会大阪府支部連合会 支部長会報告

文責／村木宏要（学27期）

令和5年5月13日(土)ホテルグランヴィア大阪にて、仁泉会大阪府支部連合会の支部長会が開催されました。当日は仁泉会理事長の安藤嗣彦先生(学20期)、母校医学部長の内山和久先生(学32期)、病院長の南敏明先生(学36期)にもご臨席をいただきました。例年よりも多い支部長の先生にもご出席をいただきました。

まず、府連会長の霜野良一先生(学28期)はご挨拶のなかで、自身も勤務医のころは仁泉会や支部活動に興味を乏しく、府連の存在も知らなかったが、開業し同窓の活動に参加してからは、仁泉会のありがたみを感じたことを述べられ、そのような体験をふまえて、もっと広報活動に力を入れるとともに、各支部長には会員への周知や、会費の徴収、学術講演会への参加などをお願いしたいと述べられました。また、府連の紹介の為にホームページを作成したことや広報委員会を設置して支部会の活性化について議論を重ねていることを紹介されました。ご来賓の安藤先生は、仁泉会理事長として奨学金事業や学会助成事業、学生への支援事業などの紹介をされ、事業継続の為に会員が多い大阪府の先生方のご協力が不可欠

であり、支部会活動の再開と仁泉会の会合への参加をして欲しいとお願いを述べられました。内山先生は、国家試験の合格難易度が年々上がっていることや、今の学生を取り巻く環境の変化についてお話をいただきました。南先生には新病院A棟が完成し、B棟が現在建設中であることや、新病院や救急センターが順調に稼働していることなどをお話いただきました。

副会長の御前治先生(学33期)からの令和4年度の庶務報告と、同じく副会長の大西洋一郎先生(学25期)からの事業報告が行われた後、議事に入り、令和4年度決算、令和5年度事業計画、予算案が承認されました。また、永らく府連役員としてご尽力いただいた佐藤公彦先生(学12期)が監事をご退任されました。新たに、中島周三先生(学32期)、中透先生(学25期)が監事に選任され、長野文昭先生(学32期)、中田英二先生(学28期)、武市直範先生(学30期)が理事に選任されました。

その後、出席者の自己紹介に移りました、スケジュールの都合で持ち時間の短い自己紹介となりました。記念撮影後に4年ぶりとなる懇親会へと場所を移し、当日出席者のうち最年長の佐藤公彦先生のご発声による乾杯で始まり、以前と変わらぬ和気藹々の雰囲気の中、積もる話をするうちに時間がすぎ、大植陸先生(学40期)の中締めでお開きとなりました。

大阪府支部連合会では令和5年11月11日(土)に学術講演会を予定しています。大阪府下はもちろんのこと、多数の同窓の方々のご参加をお待ちしております。



仁泉ひろば

jinsen-park

高槻風土記

文責／下山 誠(学6期)

私は90歳であります。今迄の思い出を幼少期、少年期、青年期と老年期に分けて記述します。

幼少期 亡母によりますと何でも幼少期は度々、熱性痙攣をおこしたとの事です。今何事も忘れやすいのは、この熱性痙攣のためではないかとも思っています。

医師であった父は、これはもう駄目だと言ったので母も諦めていたようです。私の臍げな記憶では、度々発熱しました。また、私の先祖は多くの山林や田畑を持っており、祖父や父も開業医であったためか、家族はのんびりと暮らし競争意識も無かったのです。したがって小学校のころは特に勉強をした記憶がありません。実家は屋号を半鐘と称したのです。祖母によれば、最初の家は放火によって焼失したので曾祖父は大屋根の上に半鐘を吊るしたのです。

青年期 中学1年の時、是は敗戦の年でしたが体育の教員として元将校が赴任され、それはそれは厳しい先生でした。例えば、体育の時間に私が誰かと話をしていたと言って、運動場に正座させられました。教師は、もう中止して良いと言って来ないので、私は勝手に教室に帰ったことを記憶しています。また、私の家から中学校へは、自転車で一時間もかかりましたが特に雨の日は大変でした。友人の自転車がパンクした時は、友人を後ろの荷台に乗せて、片手で友人が自分の自転車をひっぱりながら私が自転車を走らせるのでバランスを取るのが大変でした。更に、途中には長い坂道があり楽をしようと、当時は木炭自動車だった路線バスの後ろにつかまって坂道を登ろうとしましたが、運転手が危ないと思い、わざと車を左に寄せて私がバスの後ろを持ってなくなるなど色々なことがありました。

高等学校の3年次の時、進路指導の先生が、お前の成績では医学部に行くのは、とても駄目だと言われましたが、私はダメ元でも良いと思い、それからは猛勉強を始めました。幸か不幸か私は京都府立大学農学部合格しました。と言うのは、当時は最初から医学部に入学するのではなく、医学部を受験するための単位を取得し、改めて医学部を受験するのです。つまり、医学部へ行くには2回大学入試を受けねばなりませんでした。

話は変わりますが、私は約60軒ほどの寒村に生まれて京の都に出たのですから、京には多くの寺院仏閣、名高い庭園などがあって、毎週末には、自転車でこれらを駆け巡り、私はまた不勉強な学生になってしまいました。受験した医学部はすべて不合格。一浪しようと思いましたが、新聞に大阪医大補欠追加若干名募集の記事を父母が見つけ私に受験を強く勧めました。私は余り気が進みませんでした。こんな言い方をすれば大阪医大には悪いのですが、当時の大阪医大は、付属病院は3階建て、校舎は木造もありました。そこで一浪を父母に申し出ましたが、お前は祖父や父の後を継いで開業医になるのだから、どこでも良いと言ひ聞き入れてくれません。こんなことを言えば大阪医大に申し訳がないのですが、不承不承大阪医大に進学しました。大阪医大へ進学して最高と思ったことは、是も大阪医大の諸先輩の教官の方に悪いのですが、当時、京大や阪大から来ておられた非常勤講師の講義に出席したことでした。例えば解剖学のH非常勤講師は両手に色の違ったチョークを持って、子供はここから生まれると、その臓器の〇〇を板書し、要領よく大阪高等医学専門学校卒の助手の先生が、残すものは残し、そうでないものは消すといった具合でした。当時はスライドなどはなく、全ては板書だったのです。その頃の私は大学教員になろうとは夢にも思いませんでしたが、いずれの道に進もうともH講師のような立派な態度でありたいと思いました。大阪医大を卒業、インターンを終えて、いざ臨床へ移ろうとした時、医大同級生の多くは相当上の医師になっており、今更インターン直後の後輩と一緒に臨床を学ぶのは気遅れがしました。更にインターンの時、指導医と共に受け持っていた患者さんが、翌朝来世に旅立っていました。前日には全く予期できませんでした。これでは自分はとても臨床医は向いていないと思いました。また、学位の取得に指導して頂いた当時の上田助教授(のちに教授)は何を思われたのか、私に留学しないかと問いかけられました。しかし、私の学位論文は、大阪医科大学で、ご指導いただいた上田準教授に申し訳ないのですが、学位取得に提出した論文は、大学邦文医学雑誌2編、Bulletin of the Osaka Medical College1編であり、留学先が受け入れてくれることは、留学未経験の私でも難しいと思いましたが、丁度、米国から京大医化学(生化学)に留学していたDr. Gholsonが帰国時、誰か日本の研究者を連れて帰りたいと言っているの、私に行かないかとの問い合わせが京大の教授からありました。Dr. GholsonはOklahoma State University (OSU) Department of Agriculture Biochemistryの準教授(後に教授)として、OSUは田舎

大学ですが、私の学位論文では他の大学にはとても駄目
 と思い、2年間の契約で家内と1歳の長男を連れて渡米
 しました。OSUには名古屋大学医学部出身の日本人のポ
 スドクと2人の日本人女性研究技師がおりましたので英会
 話はさっぱり上達しませんでした。2週間もすれば日常
 生活に不自由を感じることは無くなりました。こんな言い方
 をすれば大阪医大に悪いのですが、OSUの設備などは
 母校とは比べ物にならない程、立派なものでした。この機
 会に多くの研究をやらねばと、土日曜なし、深夜まで必死
 になって研究を続けました。その結果、多くの論文が出来
 ました。そして、あまりにも研究ばかりしていたので、何か面
 白いことを学んでから帰国しようと、上記のポストドクと相談
 して、プロのゴルフ教官に一週間習いましたが、帰国して
 一度もゴルフは出来ませんでした。それは研究に没頭し
 たからです。OSUは田舎大学ですので、何処へ行くにも
 大型のキャンパスカーを使いました。勿論、学会も。また、私
 は研究にgerm free ratを使っておりましたので、この動物
 は特殊のため配達されません。そこで私はratを取りに行
 く為に大型のキャンパスカーを乗ることができました。ポ
 スのサイン一つで。日本では経験できないことです。

上記のごとく留学は2年間の契約でしたが、母校の都
 合で1年半で帰国し講師となり、教育と研究に従事しま
 した。多くの論文も出版出来ました。更に幸運なことには、政
 府が一県一医大の方針を打ち出し医学部のない処には
 国立医大を創立しました。私にとって、こんな幸運はないと
 思ったことは、医学部のない県に誕生した出雲市の国立
 島根医科大学に生化学教授として受け入れられました。
 全く幸運でした。もし少しでも帰国が遅ければ島根医大
 へ赴任することは出来なかったと思います。その頃の日本
 は大変景気が良く、医大設立には多額の費用が予算化
 されました(当時の共同研究室の機器だけで約2億円)。
 そして、ある日の事、教授赴任予定者が集められ、今後の
 機器の設定や研究室の配置、誰が何処の研究室を選ぶ
 か(例えば生化学は〇〇階の研究室へと行ったことが)
 討議されました。ところが何故か私には分かりませんで
 したが、多くの教授就任予定者は欠席だったので、ほとんど
 私の思う通りに、これらのことを決めることが出来ました。
 後で分かったことですが、当時の国立大では高額機器は
 各教室にあり、共同研究室がなかったのです。私は、アメ
 リカや大阪医大で共同研究室の経験がありましたので、
 上記の会議では多くの設備を思い通りに決めることが出
 来たのです。ところが、後から赴任し当日欠席した教授か
 ら、共同研究室の設備は下山が勝手に決めたと、お叱り
 を受けました。彼らは欠席したのですから、私に何らの落

ち度はありません。まあ、こんなわけで島根医科大学はス
 タートしました。最初の2年間は教養ですから(今とは異な
 り)その間は講義がなく研究に没頭することが出来まし
 た。深夜まで研究し、その後は飲みながら、その日の研究
 結果を討論して明日の研究事項を決めました。ところが運
 悪く、帰路、検問に会い飲酒運転が見つかりました。然し、
 是も運が良いことに警察官から今後は飲酒運転をしない
 ようにと諭されただけで、始末書も書かず罰金もなしに済
 みました。それは出雲に国立医科大学が出来たことに
 出雲の町は大喜び、大歓迎でJR出雲駅前には歓迎島根医
 科大学と大きな看板が立てられた程でした。したがって警
 察官も寛容にして呉れたと思っています。私が大学教官
 になって、上述のH講師のような教員になろうと試みまし
 が、とてとても駄目でした。多くの学生さんに、ご迷惑を
 かけ申し訳なく思っています。

出雲は大阪に比べ、一月早く冬が来て一月遅く春が来
 るのです。従って赴任した最初の日には寒くて暖房器具や
 カーペットが必要になり買いに出かけましたが、いずれも
 受注取り寄せでした。その店主が、それらが入荷したら、
 私の部屋に設置するから、スペアキーを貸してくれと言
 うのです。私は驚きました。出雲の方は何と親切で大阪では
 考えられないことをされるのだと。

出雲市は実に良い処です。近くに出雲大社、日御碕、
 宍道湖、足立美術館などがあります。大阪から友人が来
 れば必ずと言って良いほど、彼らに、ここらを案内しまし
 た。また、宍道湖の花火は、ホテルの最上階から見れば、
 湖上から浮き上がってくる花火となり壮観です。何時でし
 たか、父母を案内しましたが、とても喜んでくれました。ま
 た、魚介類が美味しいです。特に朝採れのもの。イワシの
 刺身、握り寿司など大阪では高級料亭以外では食べられ
 ません。安物であっても朝採れであれば美味しいのです。
 高級魚は東京や大阪に輸送されますが、安物は地元で
 消費されるのです。宍道湖のシジミは味噌汁に！更に朝
 採れのトビウオの刺身や握りは将に逸品でした。大阪では
 私は食べたことはありません。

老年期 この年になると世の中が良く見えてきます。例
 えば自分の立身出世ばかりを夢見て他人に愛嬌を振りか
 ざす人もいれば、私のように猪突猛進の人間もいます。後
 者は世渡りが下手で随分損をしたのかも知れませんが、
 いやそうではない、それで良いのだと思っています。私が
 父に感謝しなければならない事は、お前がそんなに研究
 が好きであれば、後は継がなくても良いと言って呉れたこ
 とです。そして人は、ほんの一握りの秀才以外はすべて凡
 人です。私もその一人です。その凡人が学長にもなれた

のですから全く幸運につきます。人は、ほとんどが凡人で
 すから、全てが運によって左右されると思っています。

最後に私は島根医大退職後、ある大学や病院から再
 就職の話を頂きましたが、今まで研究に多忙で家内をか
 まうことを全くしてなかったので、家内孝行をすることに決
 めました。悪性関節リウマチ、糖尿病と皮膚潰瘍を患っ
 ていた家内の治療を一手に引き受けたのです。約20年
 間。然し治療の甲斐なく、3年前に来世へ旅立ちました。
 今は祥月命日には墓参を欠かさずにいます。家内は今ま
 で年に2～3回(一回は約一月)入院していましたし、在宅
 時は色々の障害のため大変でした。勿論こうなることは予
 想出来ましたので、家を建て替えた時には車椅子が入れ
 るくらいの広いエレベーターを設置しました。更に家内
 のお陰で、色々と臨床医学を学ぶことが出来ました。また、二
 人の息子たちは、それぞれ内科勤務医として働いている
 ので、親としての責任は果たせたと思っていますし、孫た
 ちも勤務医や薬剤師として働いていますので、子供たちも
 責任を果たしつつあると思っています。こんな幸せなこと
 はありません。大変幸運に恵まれた一語に尽きます。

話は変わりますが、私が子供の時、何故か祖父の遺影

が仏壇の間に飾ってなかったのです。その理由を祖母に
 聞いた処、祖父は毎土曜には大阪へ一泊旅行に出かけ
 たらしいのです。祖母は祖父の花街一泊に怒って祖父の
 遺影を飾らなつたのです。私の代になって私は祖父の遺
 影を飾りました。

今は I beleave that no English conversation, no
 utai, no biochemistry and no haiku, no taka a bath,
 no wine no life! を信条に日々を送っています。俳句はま
 だ始めたばかりで、奥の深いのは、さっぱり出来ません。し
 かし徐々にでも上達できればと思っています。私の大阪医
 大後輩で謡曲もやっておられる竹中先生が、俳句を嗜ん
 でおられるのに魅せられて私もと始めましたが、なかなか
 難しく苦勞しています。最近、高槻の俳句の会に入れて
 頂きました。これから何年できるか分かりませんが、「温泉
 と春が同じの英語かな 中秋の名月さえてウサギ飛ぶ
 半鐘」。

俳句と言えば小林一茶の「目出度さも中くらいなりお
 らが春」の句を思い出します。何でも中くらいが最良と思っ
 ています。私の成績も中くらいでしたから(元島根医科
 大学学長記)。(2023年)

支部会・クラス会開催にあたって

支部会・クラス会開催にあたり、ご案内発送や出欠の集計等を仁泉会事務局にて
 お手伝いさせていただきます。お気軽にご相談ください。

仁泉会事務局 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636
 e-mail / jimuj@jinsenkai.net

広告募集！

仁泉会ニュースでは、広告の募集もしております。

ご出稿のタイミングや料金などは事務局までお問い合わせください。

TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636
 e-mail / jimuj@jinsenkai.net

仁泉ひろば

jinsen-park

「板谷外科の会」の報告

文責／上原従正（学14期）

三年余のコロナ禍で閉塞感に包まれておりましたが、緩和傾向を感じて久しぶりに「板谷外科の会」を4月8日に大阪梅田 新阪急ホテルで開催いたしました。

大阪医科大学第2外科学教室は1954年9月に麻田 栄教授が初代教授として開講され、1966年4月に神戸大学に転出されるまで主として心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、小児外科の臨床・研究領域を担当されておりました。

1967年4月に第2外科教室は一教室二教授体制となり、臓器別に消化器外科、末梢血管外科、小児外科を板谷博之教授（前助教授）が主宰され、心臓血管外科、呼吸器外科を武内敦郎教授（前講師）が主宰される編成がなされ、教室員は各々の志向する医局に分かれ所属しました。

さらに、1976年には第1外科教室と第2外科教室が臓器別に再編成され、板谷博之教授が消化器外科、末梢血管外科、小児外科領域の臨床・研究・教育を担当する「一般・消化器外科」を主宰され今日に継承されています。

「板谷外科の会」は1967年から1977年の間に板谷博之教授を慕い消化器外科、末梢血管外科、小児外科領域で臨床研究、手術手技にご指導を受け勉強、研鑽した57名の門下生で発足した同門会で全員が母校出身です。

1977年4月に板谷博之教授がご逝去された後に、「板谷外科の会」は数年毎に有志が集って開催して所謂「同じ釜の飯を食べたもの同士」が先輩・後輩の隔てなく胸襟を開いて交流し、情報交換など極めて和気あいの親睦会です。

今回は回を重ねて第10回を迎えましたが発足以来45年以上が経過して、当時の青年外科医は今や大半が後期高齢者となって引退や身体不都合のため出席困難者が多くなり、有限の会であり継続が難しくやむなく今回を以て解散することになりました。

なお、会費の累積残余金は仁泉会の在学生奨学支援事業に寄付することにいたしました。



仁泉ひろば

jinsen-park

今時の若い者は

文責／岡野 准（学21期）

「今時の若い者は何を考えているのか、」と嘆くようになると年寄りになったと思わなければ、或いは時代遅れになったと考えねばなりません。

小生が某院に入院していた時に、担当してくれた理学療法士に「関西の春はお水取りがすむまでは来ない。」と話したら「お水取りって何ですか」と問い返されました。季節になればニュースに流れますし新聞にも出ますが、最近の若い人はスマートフォン（スマホと言わないと古いのでしょうか）ばかりで腕時計はしないし、テレビも見ない、新聞も見ないからなのでしょう。

念のためお水取りについて復習してみます。

一般に言われている「お水取り」は奈良東大寺の「修二会（しゅにえ）」を指しています。毎年3月1日から14日間行われる練行衆と呼ばれる11人の僧侶が、二月堂本尊の十一面観音菩薩への賛美礼拝を重ね、人々の代わりにあらゆる罪を懺悔して、国家の安泰や五穀豊穡などを祈る法会の事を指します。この法要は天平勝宝4年（西暦752年）に東大寺を開山した良弁僧正の高弟、実忠和尚が創業して以来毎年途絶えずに行われてきたとされ、関西では「お松明（たいまつ）」とも呼ばれています。

修二会は祈年祭（としごいまつり）に対応した仏教の行事で、奈良時代に主要な寺で始まり、現在も薬師寺や長谷寺の修二会は有名です。東大寺修二会が、「お水取り」「お松明」と呼ばれるのは法要として行われる行事と関係しています。

練行衆（和上、大導師（咒願師）咒師（咒禁師）、堂師、北衆之一、南衆之一、北衆之二、南衆之二、中灯之一、権処世界、処世界）が行い、法会は「おこもり」から始まり、「別火坊」にある火以外 は使えません。この別火坊で、声明（しょうみょう）や法螺（ほら）貝の稽古、花拵えを作ったり、法会を照らす燈心を切りそろえたり、差懸（さしかけ）の手入れ、紙衣（かみこ）しぼりを作ったりします。「仲間（ちゅうげん）」「童子（どうじ）」と呼ばれる黒子役も松明の下拵え、結界の注連

作り等や過去帳の読誦、「走り」行堂と「香水」撒き、そして「若水汲み（お水取り）」、「達陀（だつたん）」等多数の仕事を行います。

東大寺の修二会で最も有名なのが、「お水取り」と「籠大松明（かごだいまつ）」と呼ばれる大きな松明が11本走るものです。お水取りは正月行事の若水汲みと同じもので、この若水については次の様ないわれが有ります。別当実忠和尚が初めて修二会を行って諸神を勧請した時、若狭遠敷明神は釣りをしていて遅刻し、その詫びに、若狭遠敷川の神水を観音に捧げると約束しました。若狭神宮寺では、東大寺修二会の同じ日に「お水送り」を行っています。東大寺二月堂にある若狭井戸は普段空井戸なのですが、お水取り行事に合わせてコンコンと水が湧いてくるそうです。この部分はカメラに入りませんので「お水取り」の実際はよく分からないのですが、次は「達陀」妙法で八天達が次々と飛び出し達陀松明を振り回し、内陣に火の粉を振り撒き、火の海にします（実際、火事となり二月堂を焼失した事もあります）。これに応じて香水を振り撒きます。なかなか勇壮で、火の粉を浴びるとその一年は無病息災と信じられていて、多数のカメラマンや報道陣が集まる人気行事です。ニュースで「お水取り」が行われましたと報道されると「籠松明」の光景が流されます。

有名な行事なのにどうして今どきの若い者は知らないのだろうか。



仁泉ひろば

jinsen-park

西医体冬季大会 観戦記
—3年のブランクを超えて—

文責／新井基弘（学36期）

新型コロナウイルス感染症により2020年から開催が中止されていた第72回西日本医学生体育大会冬季大会が2023年3月18日～23日の日程で好天の中、菅平高原スキー場にて開催されました。

3年のブランクの後の開催でしたが、大阪医科薬科大学競技スキー部は主管校として大会の運営を行いました。スキー部OBOG会からも萩原暢子会長、朝日通雄部長をはじめ多くのOBOGが応援に参加されました。

以下、大会会長として参加された本学薬理学教室教授朝日通雄先生のご報告です。

大阪医科薬科大学スキー部は、3年ぶりの西医体冬季大会の主管校としての役割を果たし、大会は無事に終了いたしました。

現役部員は、大会の運営を全うし、立派な大会にしてくれたと思います。

競技の成績は、総合順位で男子4位、女子2位と健闘し、雪上での練習がほとんどできなかったことを考えますと上々の成績だったのではないかと思います。

中略

雪上での練習を重ねることができ、上回生が参加でき



るようになれば、来年以降またさらに上位を狙えるようになるかと確信しております。入学時からスキーの上手な学生が入ってくるのではなく、大学で練習を積み重ね、レベルを上げていくスタイルの本学としては、雪上で練習があまりできなかった影響は大きく成績が少し振るわなかった一因かと思います。

以上が朝日先生のご報告です。

コロナ禍を超えて開催された西医体ですがコロナ禍以前と比較すると参加学生の減少が目立ちました。いくつかの大学ではスキー部部員が数名となったと聞き、また部員の減少で参加できなくなった大学もありました。部員数の回復には数年を要します。

わが母校のスキー部も部員の減少は避けられない状況でしたが、OBOG会をあげて応援できたことは学生の助け、勇気づけになったと思います。

昨今、医学教育はカリキュラムの質と量の変更をせまられています。わが母校においても例外ではありません。これからは新しい部活動の形が求められる時代になったことも実感しました。限られた時間の中であっても競技スキー部活動を通じて人としての学び、医療人としての礎を築いてほしいと思います。

最後に大会期間中、ご多忙のなかにもかかわらず救護班医師として参加いただいたOBOG会の先生方に感謝申し上げます。

特に救護班医師の派遣に関して本学の仁泉会より多大なるご支援をいただきました。この場を借りまして仁泉会理事長安藤嗣彦先生に深謝申し上げます。



表彰式を終えて、無事に大会が終了しました。

ご開業の際は 編集部にお知らせください

新規でご開業された会員諸先生方がおられましたら事務局までお知らせください。(自薦・他薦は問いません)

仁泉会事務局 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636
e-mail / jimu@jinsenkai.net

受賞・受章の際は編集部にお知らせください

各地での喜びの受賞・受章等がございましたら、事務局あてに書面、新聞などをお送り下さい。FAX、メールでのお知らせも歓迎いたします。本誌にて広く紹介させていただきます。 編集係

仁泉会事務局 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636
e-mail / jimu@jinsenkai.net

新聞切抜

2023年4月22日(土)京都新聞に同級の奥沢康正先生が長年のキノコ、特に冬虫夏草の研究者として収集された膨大な資料、書籍、写真などを整理され、後世に伝承すべく活動されている記事が掲載されましたのでご紹介いたします。

上原従正 (学14期)

キノコ博士のお宝あるよ

在野で数十年探索・資料収集
京の医師・奥沢さんらあすフリマ

在野のキノコ研究者・奥沢康正さん(82)の膨大なコレクションの一部が、フリーマーケットで売り出される。「若い世代の研究者や愛好家にバトンを渡したい」と、1年ほど前に断捨離を決意し、キノコ仲間の協力で整理を進めてきた。専門書はもちろん、キノコに関連するさまざまなグッズも並べる。

奥沢さんは京都市西京区で眼科医として働く傍ら、数十年にわたってキノコの探索、研究に取り組んできた。特にのめり込んだのが、虫に寄生するキノコ「冬虫夏草」。漢方薬として知られており、治療に役立つかもしれないと関心を寄せたが、何より虫とキノコが合体した独特のフォルム、生態の神秘性に魅せられたと

「菌糸のようにな次代へ」



奥沢康正さん

さらに昨秋には龍安寺参道商店街(右京区)の秋祭りのフリマで販売したが、「それでもレアな書籍やグッズがまた衣装ケース10箱分くらいある」といい、今月23日午前10時〜午後4時半、同商店街のフリマで再び販売することになった。奥沢コレクションに加え、佐野さんや他の愛好家の秘蔵品も出品される。

奥沢さんは「これだけ研究ができたのも、たくさん仲間がいたからこそ。菌糸が伸びるように、人と人のネットワークが広がるのが何より楽しかったし、助けられた。少しでも恩返しをしたい」と語り、キノコを愛する人たちに宝物が受け継がれることを期待する。

(阿部秀俊)

まんが第62回

コスモポン太ン (学31期)

知らんけど



続々・麒麟一番



本部だより

会員訃報

次の会員が亡くなりました。
慎んでご冥福をお祈り致します。

事務局編集係

高医13期 武野正弘先生

令和5年5月6日老衰の為に逝去（104歳）。

昭和18年卒。

昭和23年に和歌山市にて内科・小児科・放射線科武野医院をご開院になり、ご長男が引き継ぎ、平成27年3月に閉院されるまでのながきにわたり地域医療に尽力されました。

ご遺族 長男 正明様

高医15期 馬嶋一郎先生

令和4年7月26日老衰の為に逝去（102歳）。

昭和20年卒。

岐阜県岐阜市にて馬嶋内科をご開業になり、地域医療に貢献されました。

ご遺族 孫 優様

学部4期 小林弘明先生

令和5年4月19日食道癌の為に逝去（92歳）。

昭和30年卒。

卒業後、大阪大学第二内科に入局され、助手、後に中央臨床検査部講師としてお勤めになりました。昭和43年に八尾市にて小林医院を開設され、院長として地域医療に尽くされました。

ご遺族 長男 芳樹様

学部5期 和田光彦先生

令和5年1月28日硬膜下血腫の為に逝去（92歳）。

昭和31年卒。

卒業後、母校眼科学教室に入局され、昭和38年に医学博士号を取得されました。同年より三菱重工三原製作所三原病院（現三原赤十字病院）にて、昭和40年より北摂総合病院にてご勤務になり、昭和42年には同病院副院長に就任されました。昭和50年に高槻市に和

田眼科医院を開設され、地域医療に貢献されました。

ご遺族 妻 恭子様

学部6期 鈴木昭雄先生

令和5年5月5日前立腺癌の為に逝去（94歳）。

昭和32年卒。

卒業後、愛知県岡崎市で消化器内科医として勤務されました。38歳時大阪府寝屋川市にてご開業になり、82歳で引退されるまでの44年間地域医療に尽力されました。引退後は主に神戸でお過ごしなっておられたとのことです。

ご遺族 長男 秀治様（学38期）

学部7期 岩倉充享先生

令和5年4月10日病気の為に逝去（91歳）。

昭和33年卒。

卒業後、母校内科に入局されました。昭和34年6月～副手、昭和39年11月～助手としてのご勤務を経て、昭和42年4月に大阪府松原市にて岩倉内科をご開業になり、地域医療に貢献されました。

ご遺族 妻 明子様

学部34期 田村陽史先生

令和5年4月2日HNS状結腸癌術後再発の為に逝去

（63歳）。昭和60年卒。

卒業後、母校にて臨床研修を開始されました。平成28年9月よりご実家の田村内科にてご勤務になり、平成29年4月に田村医院として診療を始められ、地域医療の為に尽くされました。

ご遺族 妻 香様



お詫びと訂正

令和5年5月1日発行仁泉会ニュース第54巻第3号に誤りがございました。誌面をお借りしてお詫びし申し上げますとともに訂正させていただきます。

25頁（仁泉ひろば）右段上から14行目

誤 死刑廃止国際条約を採決し

正 死刑廃止国際条約を採択し

25頁（仁泉ひろば）右段下から8行目

誤 田藤重光最高裁判事

正 田藤重光最高裁判事

編集部より

会費納入のお願い

年会費

令和5年度 10,000円

令和4年度 10,000円

令和3年度 10,000円

納入のご協力をよろしくお願い致します。

事務局 会計係

編集後記

新型コロナウイルス感染症が本年5月8日より5類相当になり、世間では制限緩和が進んでいます。街中ではマスク着用している人の割合が日々減少してきています。今年も暑い夏になりそうで、さらに低下してゆくものと思われます。

医療機関ではまだまだ気が抜けず、発熱患者診療は時間的、空間的隔離を引き続き行っているところが多く、一般の方と少し認識にずれがあるようです。今秋には全

仁の泉

板谷外科の会 様

仁泉会奨学基金事業にご寄付を頂戴いたしました。

厚く御礼申し上げます。

誌面にご掲載をさせていただき感謝の意を表します。

一般社団法人大阪医科薬科大学仁泉会

理事長 安藤 嗣彦

原稿募集のお知らせ

仁泉会ニュースの原稿を募集しております。日々の診療で感じられた事、研究報告、趣味のお話やクラス会や支部会のご報告なんでも結構です。

ご投稿お待ちしております。

●54巻5号（令和5年9月1日発行）

締切 令和5年7月末日

●54巻6号（令和5年11月1日発行）

締切 令和5年9月末日

●送付先：仁泉会事務局 〒569-8686 高槻市大学町 2-7

E-mail：jimu@jinsenkai.net FAX:072-682-6636

く制限がなくなる可能性があり、動向を見守る必要が有ります。

編集担当としては、久しぶりに大阪府支部連合会や同期会、同門会の記事が掲載できたことはいれしく思います。5月28日開催の仁泉会総会後もささやかながら懇親会を開催されました。今後は徐々に日常を取り戻し、対面、現地開催の会合が増加してくるでしょう。その際にはぜひ仁泉会ニュースにご寄稿くださいますようお願い申し上げます。（治）



ハードルをジャンプ!!

地元で 50年

薬袋・診察券・カルテなどの
医療印刷

タツミ印刷株式会社

お気軽にご相談下さい。

池田・高槻

tel: **072-761-8434**

**医院/クリニックの
新規・移転開業向けテナント**



人気エリア茨木

大阪北摂の人気エリア茨木
好立地、視認性が高く
良好な集客が見込めます



抜群のアクセス

JR総持寺駅徒歩11分
阪急総持寺駅徒歩10分
アクセス抜群



レイアウトフリー

スケルトン渡し
医療向け仕様ビル



物件詳細

名称
所在地
交通
用途
構造
竣工
募集予定区画
区画面積
条件

ペルル三島丘
茨木市三島丘 2-6-3
JR 総持寺駅徒歩 11 分
阪急総持寺駅徒歩 10 分
医療用テナントビル
S 造 3 階建
エレベーター
令和 1 年 12 月
2 区画
30 坪
1 階薬局開設済み
お問い合わせください



お問い合わせ先

大阪府茨木市三島丘 2-21-3 株式会社啓光 担当 石橋
E-mail: keicoh.ai@gmail.com TEL・FAX:072-622-3117 携帯 090-9542-3368